



図 1 三宅島 山頂火口からの噴煙の状況（2月28日、坪田（三宅島空港）遠望カメラによる）

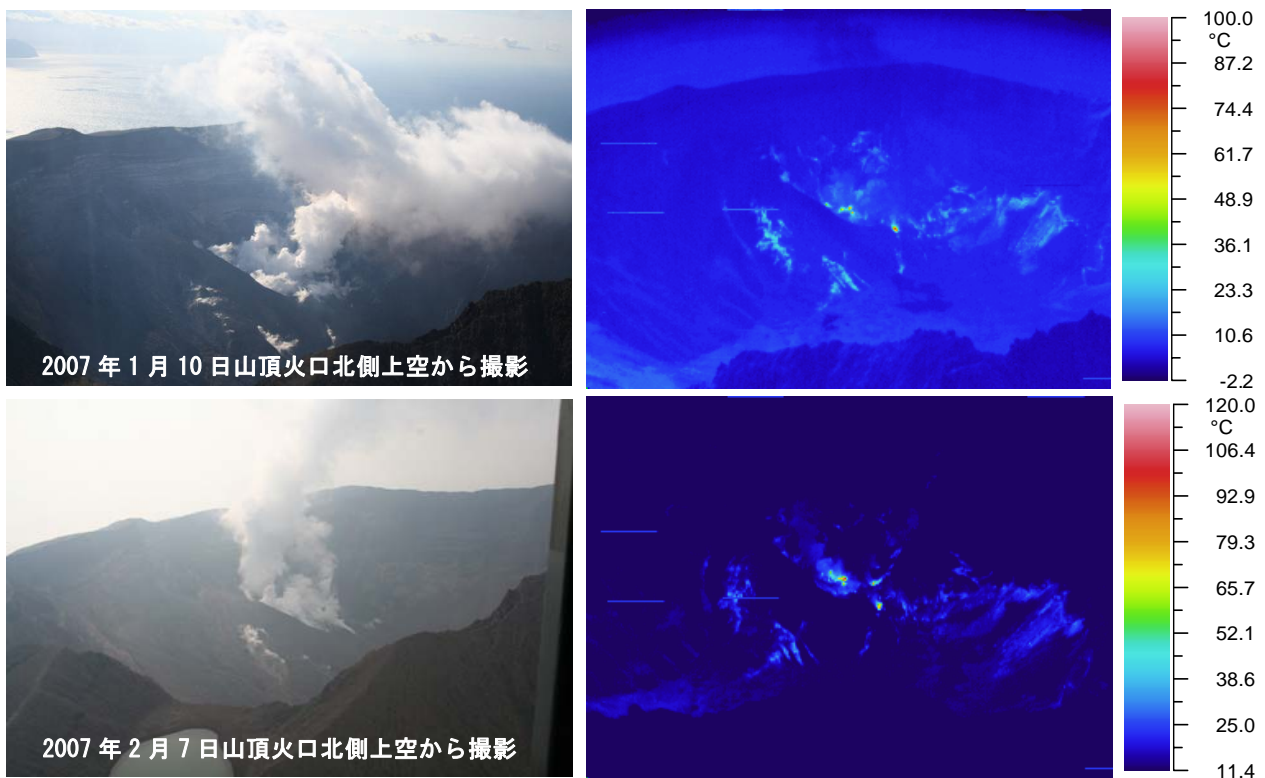


図 2 三宅島 山頂火口内の状況（上段：2007年1月10日、下段：2007年2月7日）

左側：山頂火口南側内壁に位置する主火口の状況

右側：赤外熱映像装置¹⁾で捉えた主火口及びその周辺の地表面温度分布

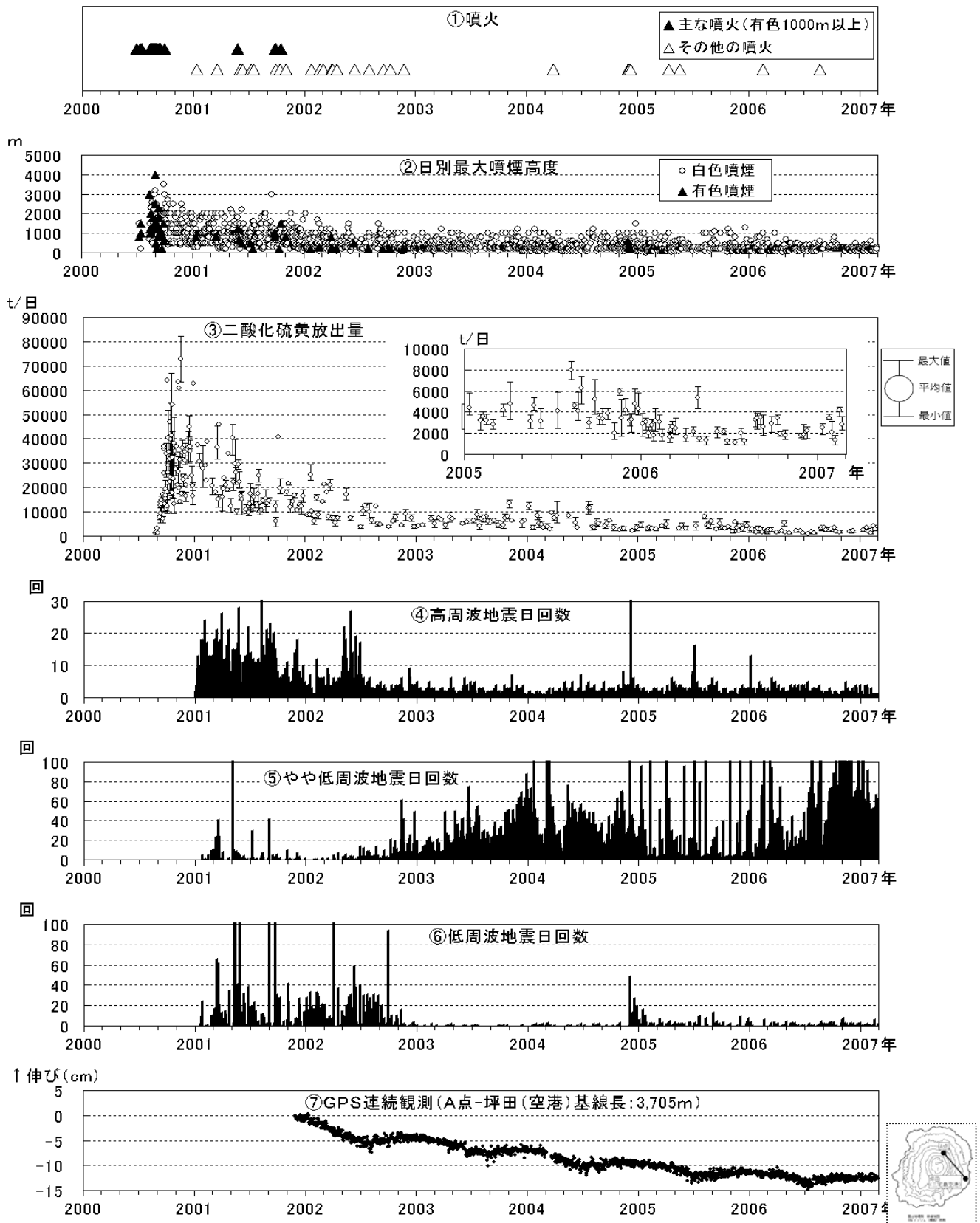


図3 三宅島 最近の火山活動の推移 (2000年1月~2007年2月)

③は、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。

④、⑤及び⑥は、地震の種類別(図6参照)に計数を開始した2001年1月1日からのデータを掲載しています。

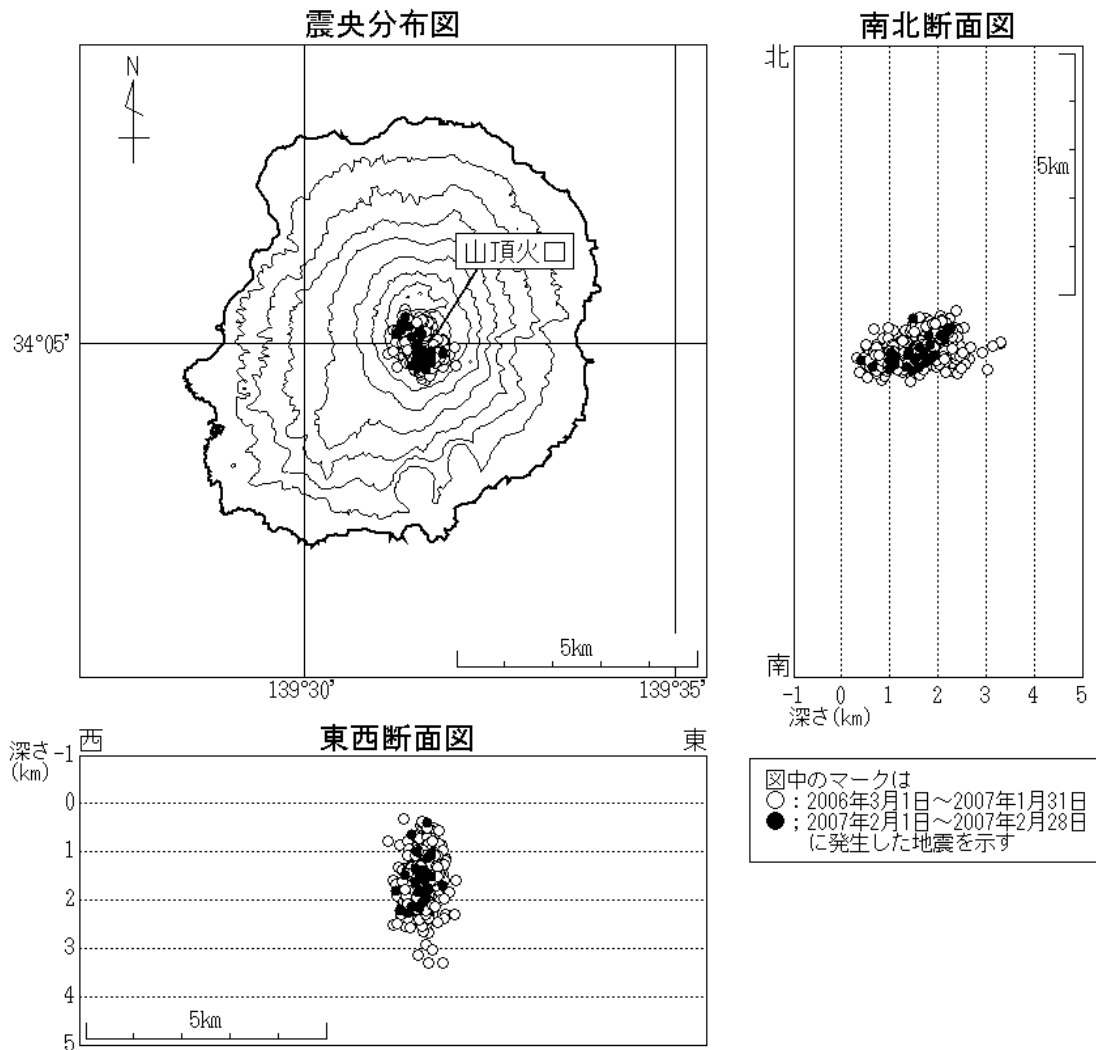


図 4※ 三宅島 火山性地震の震源分布（2006 年 3 月 1 日～2007 年 2 月 28 日）

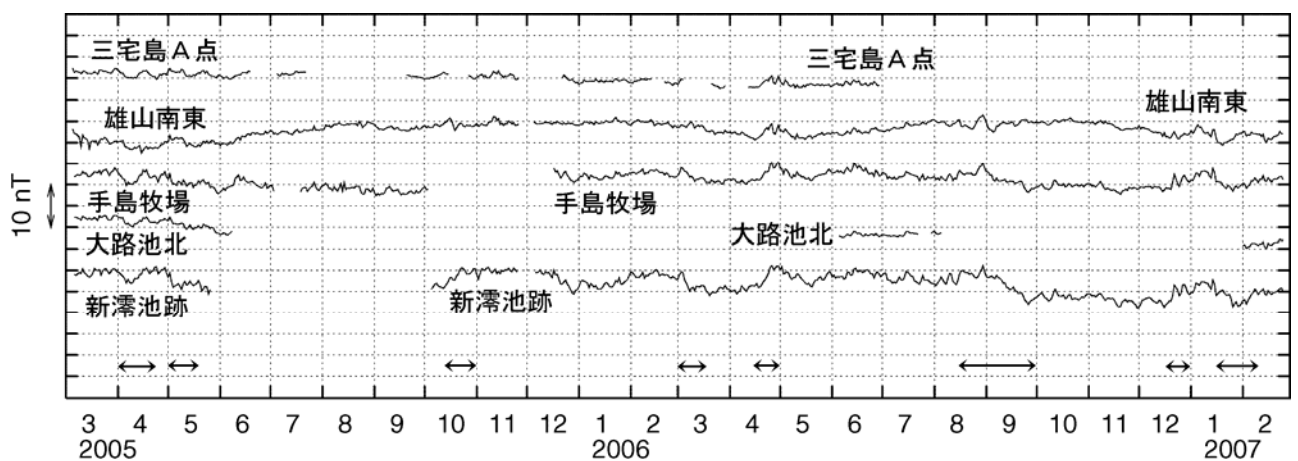


図 5 三宅島 全磁力連続観測による全磁力値の変化（2004 年 12 月 1 日～2007 年 2 月 28 日）
 ←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。
 nT（ナノテスラ）は磁場の強さを表す単位です。

表1 三宅島 2007年2月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震回数5)			微動回数	噴煙の状況6)		備考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震(空振あり)		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	0	35	0	0	200	1	
2日	0	0	30	0	0	200	1	
3日	0	1	38	0	0	200	1	
4日	0	0	39	0	0	-	-	
5日	0	0	43	0	0	200	1	
6日	0	3	52	0	0	100	1	SO2放出量 900~1,800 t/日
7日	0	0	23	1	0	600	2	
8日	0	0	22	0	0	200	1	
9日	0	1	16	0	0	200	1	
10日	0	1	13	0	0	200	1	
11日	0	0	37	0	0	100	1	
12日	0	0	53	1	0	-	-	
13日	0	1	22	0	0	200	1	
14日	0	0	21	0	0	100	1	
15日	0	0	22	0	0	-	-	
16日	0	1	46	0	0	200	1	SO2放出量 3,600~4,500 t/日
17日	0	1	27	6(2)	0	×	×	
18日	0	0	18	0	0	×	×	
19日	0	0	22	0	0	100	1	
20日	0	1	53	0	0	×	×	
21日	0	1	67	0	0	200	1	SO2放出量 2,300~3,600 t/日
22日	0	1	38	0	0	200	1	
23日	0	1	55	0	0	×	×	
24日	0	2	28	0	0	100	1	
25日	0	0	30	0	0	100	1	
26日	0	0	63	2	0	×	×	
27日	0	0	19	0	0	300	1	
28日	0	3	31	0	0	200	1	
合計	0	18	963	10(2)	0			

5) 火山性地震の計数基準はA点振幅で8m μ /s以上、S-P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

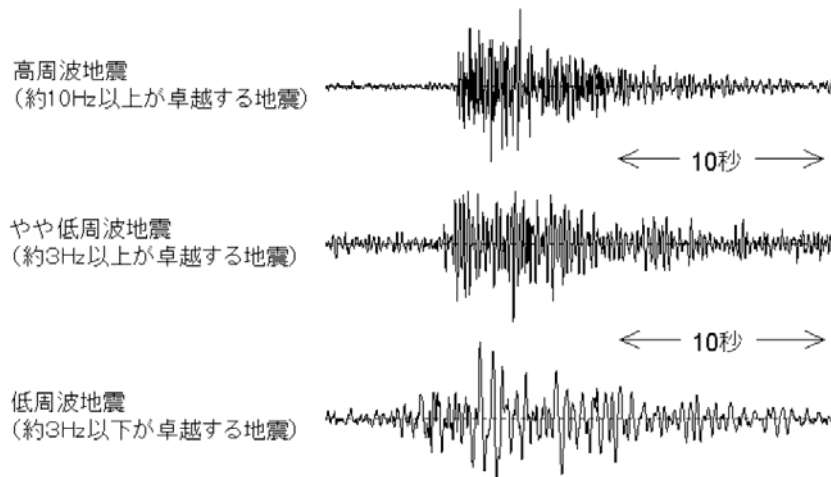


図6 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

6) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・12時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。
1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量
7: 噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの
-: 噴煙なし x: 不明

表2 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第5号 ～ 火山観測情報第8号	毎週金曜日 16時30分頃 定期的に発表	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火山ガス・地震）

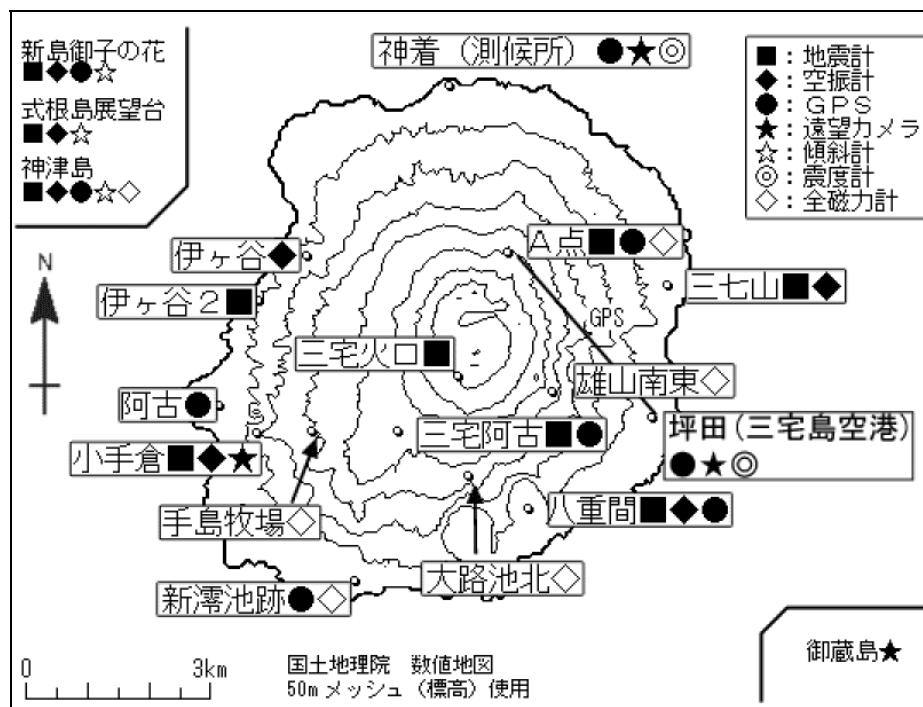


図7 三宅島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS基線（A点－坪田）は図2の⑦に対応しています。